

開催日 2024年 12月 12日 (木)

2024年12月12日(木)に教育機関等イベントとして、中央高等学院とその提携校において「冬休み職業紹介(多様な医療関係の仕事)」がZoomで開催されました。

高校1、2年生の生徒さん(午前19名、午後23名)が参加しました。生徒さんは自宅からZoomで視聴しました。

当イベントの目的は、生徒が多様な職業があることを知るキャリア教育の一環として、医療の現場ではいろいろなメディカルスタッフ(医療専門職)が患者さんにかかわり、最適・最善なケアの提供をしていることを学び、自分の進路を考えるきっかけにすることです。

チーム医療推進協議会が事務局(窓口)となり、日本義肢装具士協会を含め8つの医療専門職の団体に声が掛けられイベントが実現しました。

プログラムは午前と午後の部に分けられ、各職種毎に20分の発表時間が割り当てられていました。当協会は午前の部で発表し、発表後は中央高等学院の白石氏と質疑応答を行いました。

参加した医療専門職は以下の通りです。

日本公認心理士協会、日本診療情報管理士会、日本医療ソーシャルワーカー協会、臨床衛生検査技師会、東京都作業療法士会、日本臨床工学技士会、日本視能訓練士会、日本義肢装具士協会

各職種の説明は20分行き、8つの医療専門職の話を一度に聞いたことは生徒さんにとって有意義な時間だったのではないのでしょうか。

以下にイベントの概要を説明します。

各医療専門職の説明

8つの医療専門職の団体から、写真や動画を用いて、わかりやすく仕事内容が紹介されました。

- ①仕事の内容
- ②どのようにその職種を知ったのか
- ③どうしてその職種を選んだのか
- ④どうしたらその職種の資格が取れるのか
- ⑤その仕事の魅力

義肢装具士は前半4番目の発表でした。義肢と装具の説明、仕事内容の説明、そしてどうして義肢装具士を選んだかの話をして、最後は義肢装具士の魅力を伝えました。日常生活で使用する義足とスポーツ用義足の違いについても紹介し、多くの生徒に興味を持ってもらえました。

スポーツ用義足



常用義足とスポーツ用義足の違い



< Zoomの様子 >

イベントを終えて...

中央高等学院の高校生1、2年生を対象に、Zoomにて医療関連の職業紹介として義肢装具士の紹介を行いました。事前に指定された発表内容に加え、義肢装具士の仕事について具体的に伝えられたと思います。

今回は、日常生活に用いる義手・義足に加えて、スポーツ用義足についても説明を行い、多くの生徒に今日を持ってもらえたのではないかと思います。

質疑応答では、女性の義肢装具士の人数について質問がありました。全国の義肢装具士養成校の概況から、男女比では概ね6:4もしくは7:3で男性の方が多いものの、近年では義肢装具士を目指す女性が増えているように見受けられると回答しました。

今回は、文字情報と静止画のみで説明を行いました。動画も交えることでより理解を促すことができるのではないかと感じました。

担当幹事：芥川 雅也

アンケート(生徒の感想 一部抜粋)

【1年生】

パラリンピックを家族で見る機会が多く、義足をしている友達も私の身近にいますので、義肢装具士のお話を聞けると学校から連絡が来た時に、参加しようと決意しました。義肢や装具という言葉について、1番初めに触れてくださった時、改めて、ああこういう意味を指すんだな、ととても勉強になりました。

義足も、スポーツ用義足と通用義足との2種類があることは知っていたのですが、義足の作り方まではあまり詳しくなかったので見識が広がり嬉しいです。

それに、大腿義足と下腿義足の作り方が結構違う事に驚きました。自分自身、足を失ったことが無いので、義足を身につける経験が無いのですが、義足に助けられた友人は、義足は自分の人生にとって彩りを与えてくれると言っていた言葉を思い出し、義肢装具士もいいな…と自分の心に進路の迷いがみえています。

素敵な職業の丁寧な説明、ありがとうございました。すごく面白かったです。

【1年生】

実際の仕事はどういう感じなのか、インターネットでは調べられない貴重なお話を聞くことができ、進路について考えることができました。

【2年生】

私たちが普段健康に過ごすために、医師や看護師だけではなく、様々な職種の方たちの働きがあることがよく分かりました。普段あまり見ることのない仕事の内容や、働く上で大切なことなど、とても分かりやすく説明していただきありがとうございました。

【1年生】

他の職種と協力して患者さんを支えていくことのできるチーム医療の必要性を強く感じました。たくさんの専門家と一緒に働くことで、よりよい医療を提供できるところが素敵だなと思いました。